

スイカ果実汚斑細菌病

英名 : Watermelon Bacterial Fruit Blotch

学名 : *Acidovorax avenae* subsp. *citrulli*

細菌によって引き起こされるすいか等の病害で、種子伝染する。感染種子による幼苗の発病、灌水や接ぎ木による育苗期の二次感染、り病苗の定植による栽培ほ場でまん延することが知られている。

【世界における発生地域】

アメリカ合衆国、グアム、タイ、台湾、中華人民共和国、イスラエル、トルコ、ギリシャ、ハンガリー、南アフリカ共和国、コスタリカ、ブラジル、ベネズエラ、メキシコ、オーストラリア

【主な宿主植物】

すいか、とうがん及びメロン

【被害状況】

感染すると幼苗から果実まで全ての段階で被害を与える。特に、果実に感染すると、最後には腐敗果となり、ほ場全体に壊滅的な被害を与える。

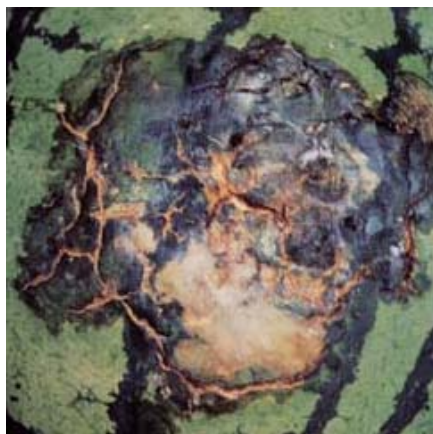
【我が国の状況】

1. 我が国では、平成10年に山形県で初めて発見され、その後、北海道、茨城県、長野県、鳥取県、徳島県、熊本県等においても発生したが、いずれも防除済み。
2. 植物防疫法により、発生地域からの宿主植物の種子であって栽培の用に供するものは、栽培地検査を要求している。

【防除方法】

種子消毒済みの健全種子を用い、育苗期、ほ場での栽培期においては、登録農薬（銅剤等）を散布し、本病の発生の予防、万が一発生した際の拡大防止を行う。

また、発病植物体は、周辺株と共に即座にほ場外に持ち出して、地中深く埋没する等、適切に処分するとともに、発生が確認されたほ場の植物体は、翌年の感染源になる可能性があることから、植物体残渣も含めて、発病植物体と同様に適切に処分する。



被害果（表面）



被害果（断面）